

軽米町百人委員会第1回しごと・観光部会議事録

○開催日時：平成30年8月10日（金）午後6時30分～午後8時10分

○開催場所：軽米町役場2階会議室

○出席者

委員 21名中9名出席

事務局：産業振興課 小林、日脇、畑中、長瀬

再生可能エネルギー推進室 戸田沢

税務会計課 小笠原

総務課 梅木

○開会

（事務局）皆さん、お忙しいところお集まりいただきまして大変ありがとうございます。時間になりましたので、今年度の百人委員会第1回しごと・観光部会を始めさせていただきます。まず始めに、部会長さんからご挨拶をお願い致します。

（部会長）おぼんでございます。お忙しいところ大変ご苦勞様でございます。台風が当たらずに一安心しているところでありますけれども、今回のしごと・観光部会は今年初めての開催ということで、今年はテーマをはっきりさせて、充実した内容になるよう進めてまいりたいと思います。今日は人数が少ないですが、様々な意見をいただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

（事務局）ありがとうございました。それでは早速協議に入りたいと思います。協議につきましては、設置要綱の第7条に基づきまして、部会長さんから議長をお願いしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

（部会長）それでは早速2番目の協議に入ります。昨年第3回までの部会で話し合ってきましたが、今回からは主にテーマ2の地域資源を生かした産業の活性化について、委員の皆様から意見を出していただきたいと思います。テーマ1のかるまい交流駅については進捗状況の報告とすることによろしいでしょうか。

（委員）異議なし。

（部会長）それでは、事務局より報告をお願い致します。

（事務局）それでは座ったままで説明させていただきます。資料No.1をご覧ください。かるまい交流駅（仮称）整備事業の一昨年からの進捗状況について載せております。2ページ目をご覧ください。同じ資料によりまして、前回第3回までもご説明申し上げますので、64番目の軽米町百人委員会（第3回）以降につきましてもご説明いたします。65番ですけれども、平成29年12月7日、広報かるまい「お知らせ版」で基本設計（案）の図面を全戸配布いたしました。配布した資料を見ていただいたうえで、平成29年12月22日及び24日に住民説明会を開催しております。68番ですけれども、平成30年1月30日に第9回建設検討委員会を開催いたしまして、住民説明会での質問・意見に対する回答内容の確認をしていただきました。2月28日には確認いただいた説明事項等を広報かるまい「お知らせ版」により全戸配布しております。3月27日に交流駅の建設予定地の物権移転補償を確認して完了しております。これについては、住居1件、立木、ビニールハウス等でございます。3月28日、調査測量設計業務及び補償物件調査業務が完了いたしまして、完成検査を行っております。今年度に入りまして4月20日、実施設計業務の委託契約を完了しております。受託者は基本設計業務と同じく、株式会社武田菱設計さんでございます。同日には、仙台で開催された環境省所管の二酸化炭素排出抑制対策事業費の補助金説明会に出席をいたしまして、交流駅に導入していきたい補助事業等について

打ち合わせを行ってまいりました。4月25日に実施設計業務に着手しております。実施業務は来年3月25日までを期限として進めております。5月9日、平成30年度交流駅整備事業に係る起債、実施設計業務の契約額が約5千万円弱でございますが、起債充当のための計画書を提出しております。6月4日に第10回建設検討委員会を開催しております。これは今後の進め方についてご意見を伺ったものが主な内容となっております。7月4日には建設予定地の電柱移転申請を東北電力さんとNTTさん宛てに出しております。これは来年度から町道の付替え工事等の一部工事に着手することに伴いまして、電柱移転が12本程度出てきます。それは来年度の当初予算に反映させていかなければならないということで、12月頃までに電柱移転に係る費用を出していただくための申請でございます。7月9日に軽米町文化協会の理事会が開催されまして、そこで基本設計(案)の図面を見ていただきながら、ステージイベントは文化協会さんの展示等が主になりますので、内容について説明いたしました。7月17日に第11回建設検討委員会を開催し、滝沢市複合文化施設「ビックルーフ滝沢」を視察研修しております。7月18日には来年度工事予定の町道の付替工事に伴いまして、県道への交差点協議が必要ということで、二戸警察署と最終協議を行っております。8月7日でございますが、文化協会さんの理事会がございまして、ビックルーフ滝沢の視察研修に文化協会さんにも参加していただきましたので、その意見等を取りまとめるために理事会の方へ出席しております。併せて図書館支援協議会さんと図書館のレイアウト等について打ち合わせを行っております。そして本日8月10日、百人委員会の今年度第1回しごと・観光部会の開催という進捗となっております。以上でございます。

(部会長) ただいま説明いただきましたけれども、皆さんの方から質問等ございますか。

(委員) 電柱移転は、埋設はないのですか。

(事務局) 軽米町は電線の埋設はありません。移転になります。

(部会長) 他にありませんか。なければ次の協議に入りたいと思います。続きまして協議事項2の地域資源を生かした産業の活性化についての今後の進め方について、事務局より説明お願い致します。

(事務局) 資料No.2をご覧ください。昨年度10月23日の第2回部会、11月29日の第3回部会で出された意見を12月の全体会で報告しておりますが、この意見を分類したのになります。1から7まで分類しておりますが、分類1は食に関わる内容をまとめたもので、7つの意見がございます。分類2は施設の関係についてまとめたもので、整備や既存の施設をどう観光・しごとに生かしていくかという内容の意見5項目となっております。分類3は地域資源の内容で、地域資源を生かした観光の推進を図っていけばいいのではという意見4項目を分類しております。分類4は一番意見が多かった内容ですが、情報関係について、情報の発信・PR等に関する11の意見を分類しております。分類5は人材についての内容で、観光等の行事を進めていくに当たって人材に関わる部分の意見2項目となっております。分類6はイベントについての内容で、現在行っておりイベント等の内容をどう観光につなげていくかという意見となっております。分類7は環境問題に関する内容で、環境を良くして観光につなげていったらいいのではという意見を分類したもので、以上7つの分類に意見を分けた資料となっております。今後の進め方ですけれども、これから委員の皆様方で話し合ってくださいますが、事務局の案として提案させていただきます。全体会までに、今回の部会を含めて2回の部会の開催としたいと考えております。今回はただ今説明いたしました資料2の分類1から分類3までについて、当町の仕事や観光に結び付けていくために、自分あるいは地域で協力してできることは

何なのか、行政にしてもらいたいこと、すべきことは何なのか等について、今まで出された意見を掘り下げながら考えていただければいいのかなと考えております。他の部会では同じように進めています。防災関係で自助・共助・公助に分けて、自分で防げるもの、地域と会社等で協力しながら防げるもの、軽米で言えば役場になります。公の者が防災をするためには何をしなければいけないかを地方創生に適用させた考え方をしていければいいのかなと考えております。そのうえで、公民連携した取り組みに繋げていくための意見を出していただきたいと思います。次の第2回の部会につきましては、残りの分類4から分類7について同様に意見を出していただきまして、そのご意見をこの部会の最終的な意見として、今年度も12月になると思われますけれども、全体会に報告するという進め方が良いのではないかと事務局では考えておりますので、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思っております。よろしくお願い致します。

(部会長) ただいま事務局から今後の進め方ということで提案がございましたけれども、事務局の案通り、今回は分類1から分類3まで協議するというところでよろしいでしょうか。

(委員) 異議なし。

(部会長) それではそのように進めてまいります。まずは分類1から分類3について、自分あるいは地域で協力してできることは何かについてご意見を出していただきたいと思っております。まず私の方から、ソーラーができれば雇用が生まれるという意見がありました。管理業務は西ソーラー東ソーラーの建設会社がやるということですか。

(事務局) 維持管理については別の会社が行うことになっておりますが、管理部分は町に委託してほしいというお願いをしています。つまり町の人管理を担っていくような仕組みを作っていくということです。

(委員) 売電元は山内生産森林組合ではない？

(事務局) 売電元は合同会社山内西ソーラーと合同会社山内東ソーラーになっております。軽米町にそういった法人が立ち上がっています。

(委員) 法人が立ち上がっているというのは、町の人が立ち上げたということではなく、別の所から会社が町内に入ってくるということですか。

(事務局) 軽米町の人ではないです。代表者1名で従業員はいないのですが、登記簿上は軽米町に登記をしているということです。

(委員) それによってある程度雇用は生まれるということですか。

(事務局) 雇用といっても、例えば草刈りや側溝上げといった内容になってきます。電気関係の業務等については資格がないとできませんので、そういった部分については難しいと思っております。

(委員) 草刈りと言っても400町歩もあるとそう簡単にはできないのでは。

(委員) 草を刈るというのは、パネルを配置した部分の日照に影響があった場合を想定しているのだから、全体の草を刈るということではない。

(委員) パネルの下はやらないのか。

(事務局) 面積からいってそこまではできないのではないかと考えています。草がパネルに掛からないように管理していくということになると思います。

(委員) ポイントは年間雇用で従業員を雇用できるかどうかだと思います。夏場は草刈りをしたり貯水槽や側溝の泥上げをしたりと仕事があると思いますが、冬場の仕事はありますか。

(事務局) ないと思っております。

(委員) そうすると夏だけの季節雇用ということになって、若い人たちの雇用の確保にはつながらないということですね。十文字チキンカンパニーさんでバイオマスの発電をしていますが、そこでは若い人たちの雇用がかなりあって、地元からもあるし地元以外からも来ている。先日見学させてもらいましたが、かなり若い人たちが働いていて、町のためにもなっているし、そこで働いている人たちも充実した顔で仕事していました。そういった形でソーラーが雇用に結びつけば、すごくいいなと思っています。

(委員) 完成してしまえばそんなに人手はいらないということだと思いますが、以前町長のお話では、再生可能エネルギーが完成すると軽米町でもかなりの雇用が生まれるということでした。しかし、いざ完成すると管理業務くらいで、町民の雇用は期待できないということになる。

(事務局) 雇用がないというわけではないのですが、期間を限定した雇用になると思われま

す。

(委員) 何名くらい雇用できるのか？

(事務局) まだ具体的な人数は分かりません。

(事務局) 昨年、第2回、第3回部会で同じテーマについて意見を出していただいていたので、今回も同じテーマで意見を出してくださいと言われても困るのではないかと思いますので、資料No.2の分類1から3までを更に項目別に分類した資料をお配りしました。これから説明いたしますが、分類1の食であれば、料理コンテストや講習会を開催するという内容の分類、販路開拓やマーケティングについての分類、太陽光設備工事の関係で町内に働きに来ている人たちの食事を町内で賄えるようにしてほしいという意見がありましたが、町外から通われている方が多いのですが、昼食については町内業者への発注等を行っていただいているということです。それから、6次産業化の推進についての内容に分類しています。例えば料理の講習会やコンテストを開催すれば、しごと・観光にうまく繋がっていくのではないのか等の意見を先ほどの自助・共助・公助に当てはめると、自分だけでなく町民の方々ができることは何か、地域でできることは何か、役場でないといけないことは何か、そのような形で話し合ってみるのはどうかという提案でございます。分類2、分類3についても同じように項目を分けております。そういった形で話し合っていて、前回までになかった意見を出していただいてもいいのではないかと考えております。

(委員) 行政にやってもらいたいことは、マーケティングとリサーチ。どこでも作っていない物、オンリーワンの物を探し当てないといけない。そこを狙っていかなければ。

(事務局) 地元の食材を活用した特産品を作っていかなければいけないと思います。開発するにあたっては、自分たちだけで決めないでいろんな方を巻き込んで、ちゃんと売

る方の意見も聞いて作っていくという感じでしょうか。

(委員) その通り。私はこれが良いと思うだけじゃなく、周りの意見も聞くべき。他者から見た印象は大体合っているようなので、マーケティングやリサーチでも、今どういったものか客観的に探し当てて作っていく。そしてこれだと思うものが出てきたら、集まって相談するというのをやっていかなければならないと思います。

(事務局) 委員の皆さんはどういった商品が良いと思いますか。例えば、麺やスイーツ、アイスクリーム、ジェラートとか。

(委員) さるなしのソフトクリームは既にある。

- (委員) さるなしソフトは5月のチューリップイベントの時しか食べる機会がないという印象があるので、それをカップに入れて商品化して町内で売るようにしてはどうか。売り出す商品があるのにある時期しか食べられないのは販売機会を逃しているの、カップ化して商店やコンビニに置くようにしたらいいのではと思います。
- (事務局) チューリップフェスティバルではフォリストパークに行けば食べられるが、それ以外はミル・みるハウスまで行かないと食べられないのが現状です。
- (事務局) まさにその通りだと思います。今年事業を組んで、ジェラートの開発を進めています。さるなし等の今年の原料を使いながらカップアイスを作って、お土産や地元で食べられるように作りたいということで動いております。町内の商店さんには卸につながるかどうかを含めて、広く意見を聞きながら進めていこうと思っております。
- (委員) さるなしソフトはラクトアイス？機械に原料を入れてかくはんして作っているのか。
- (事務局) さるなしソフトはそうです。
- (事務局) 普通の店に売っているようなカップに入ったアイスクリームを作って、町内のどこでもさるなしアイスが買えるように、今検討しているところです。
- (委員) カップに入ったアイスを機械にセットして、上からギュッと押してソフトクリームのように作るものもある。ソフトクリームよりは少し硬い。町内の何店かはその機械を導入しているところもあるから、その機械に使えるカップアイスを作れば町内の店舗でも売れるのでは。
- (事務局) そこまで進展していけるかは今後の検討によると思いますが、今考えているのは、カップアイスとしてお土産にしたりふるさと納税の返礼品に使えたり町内で販売できるものということで、軽米の農産物を使った商品を作りたいと思っております。
- (委員) そのためには役場職員を始め、アイスクリームを作る人たちはお腹を壊すくらい試食しないといけない。それくらい試行錯誤していいものを作らなくては。
- (委員) このしごと・観光部会で試食してみてもどうか。
- (事務局) 試食できるまで時間がかかるため、寒い時期になるとは思いますが、イベント等でみんなが集まったところで食べてもらって、意見をいただいて作っていきたいと考えております。
- (委員) ふるさと納税の返礼品は何がありますか？
- (事務局) 金額によって商品が違いますが、特産品の詰め合わせの商品が多いです。一番売れている商品は東北限定のサッポロビール。10月から1月の季節限定になります。次がえごま、木炭、大黒醤油の味噌や醤油の詰め合わせなどが出ています。
- (委員) 焼酎も出ている？
- (事務局) 焼酎も出ていますが、現在品切れ中です。
- (事務局) これまでえごまがそれほど出ていなかったのが、テレビ等で健康食品を取り上げられてから注文が多くなって、在庫が一気になくなってしまった。今年えごまが取れないと今年度の売り上げが落ち込むくらい需要があるそうです。
- (委員) えごまの耕作者は減っている？
- (事務局) 現在26名います。以前と比べて横ばいの状態です。面積は昨年14ha程だったのが、今年は16ha程に増えています。
- (委員) 面積が増えても収量が増えるわけではない。米のように10a当りいくらという計算ができない。天候の影響もある。
- (事務局) 面積を広げて機械でやると手作業の収量より落ちてしまう。

- (委員) 収量が安定して増えると、手のかかる商品は競合が少ないため売り上げにつながる。
- (委員) えごまは匂いが強いいため他の作物と同じ機械を使うことができない。そのため手作業になってしまう。面積が増えれば専用の機械を導入して収量を増やすことができるのでは。
- (委員) 産地化できるかどうかは、そういった問題をクリアする必要がある。
- (委員) 一番重要なことは、耕作者がえごまを作ってよかったと思えないといけない。
- (事務局) えごまは収穫が難しい。機械作業と手作業との違いにより、10a当たりの収穫量に大きな差がでできます。
- (委員) 料理コンテストというのは、町民に問うコンテストなのか。例えば他の地域だと海の方では鮭の料理のコンテストを開いて、いいものがあれば商品化するというようなことをやっている。そういった意味のコンテストなのか。何か品目を決めてアイデアを募っては。
- (事務局) 例えば雑穀をテーマにしたコンテストを開催して、こんなものいいのではという意見が出てくる可能性があるのではないかという意味のコンテストです。
- (部会長) それでは、今後の進め方として分類1から分類3の中でさらに分類された項目ごとに意見をお伺いしていきます。分類1の食についてですが、まずは料理コンテスト・講習会の開催について、みなさんはどのようなイメージをお持ちですか。
- (委員) 材料を示さないといけないのでは。
- (委員) 去年のシリアルサミットの料理コンテストでは高校生が優勝した。彩もきれいで上手だった。まずは雑穀を使ってどんな料理が作れるかを募集してコンテストを開く、それを食べてみて商品化できそうなものを決めていくというように段階を踏んでいくべき。えごまにしても将来性があるこの先ずっと続きそうだと判断できるのであれば、専用の機械を導入するのもいいと思う。
- (委員) 福島県にえごまで有名な町があるとテレビで見たことがある。他の町にはどういったものがあるかを研究しながら、それに勝るものを作れば売れるということになる。料理コンテストと言うからには、賞を与えるのか。
- (事務局) 個人的には1位2位3位に賞金を与えれば、皆さん真剣に取り組むのではないかと思います。とてもいい意見だと思います。
- (委員) 2、3年前に二戸管内の市町村でそれぞれの特産を開発する事業で、軽米町も大福等の商品を何品か商品化したという記憶があるが、それはもう終わったのか。
- (事務局) フルーツ大福は現在も販売しています。生産者が一人で作っているため、数量があまりない。
- (委員) まずは役場で補助金をもらってやってみるのがいいと思う。何か制度を利用して、軽米ブランドを作っていくのは。
- (委員) 料理コンテストでは、上位者に賞金を与えるだけではなく、よかったら商品化となると構えてしまうので、副賞として限定何食を町内で食べられるようにすれば町の人たちも実際に口にできるのでいいのではと思います。
- (委員) 品目の選定が重要。町の特産品として売り出していくような素材をメインにしてやっていかないといけない。
- (委員) 賞金を出して順位を決めて、見込みがあれば助成金等を活用して完成度を高めて進めていくのがいいと思う。
- (委員) 軽米町産業開発は本来そういった使命を担っているはず。
- (事務局) 産業開発に限らず、地域食材を活用した特産品を開発していくために、今までは作る側だけで考えて作って売れなかった。どういったものを作るかという段階から

- マーケティングをやったうえで作っていくということが足りなかったと思います。例えばコンテストを開いてみる、賞品をあげる、いいアイデアでみんなから人気のあるものであれば、試食を作ってみてPRしてみる。それから販売に繋げていくということ。作る前の段階から考え直していく必要があるのかなと思っています。
- (事務局) ものを作って売るという6次産業化のなかで、加工を町内で賄えないというところがネックになっています。盛岡や久慈に委託しているのが現状です。
- (委員) 新製品を開発することだけではなく、他の商品に一工夫加えていいものができるのであれば、真似するというのも一つの考え方としてある。
- (事務局) 現在は地方自治体にもホームページやSNSを使ってPRする専門の職員がいる市町村もあります。軽米町はそこまで進んでいないので、お店に来て買いたい人にだけ売るという形になっているので、インターネットで売り込むとかいろんなPRの仕方です。ヒットする可能性はある。
- (委員) これからはインターネット専門の職員がいることが当たり前の時代になってくる。
- (事務局) 役場としてはSNSを利用してPRしていくことが正しいのかどうかを考えている状態。どこに危険やリスクがあるかも分からない。ただしSNSを利用するのであれば、危険を冒さないように専門知識を持った職員が必要になってくると思います。
- (委員) かるまいテレビは役場ではなくどこかに委託している？
- (事務局) 委託している。
- (委員) 同じように委託できる業者があればいい。
- (事務局) 今後のことを考えるのであれば、専門知識を持った人や都会からの協力隊を活用しながら、6次産業化の推進を図っていかねばいけないと思います。
- (委員) えごまは一過性のブームで終わらないか心配だ。
- (委員) オリーブオイルやごま油のように定着しないかもしれない。
- (委員) 今はないから欲しいということだが、供給が豊富になった時はどうなるか分からない。
- (委員) 前回のシリアルコンテストはお菓子が多かった。
- (事務局) 雑穀の他に軽米で生産している野菜等でもいいと思います。
- (部会長) 分類1の食については大体まとまったと思いますので、分類2の施設に移りたいと思います。このテーマについては何かご意見はありますか。企業誘致の推進については何十年も言っていることですが、なかなか実現していないのが現状ですけれども、それについて何か動いていることはありますか。
- (事務局) 現在は誘致している企業はありませんが、大規模な施設野菜の施設を検討しています。施設園芸ですと燃料費がかかりますので、その燃料を鶏ふん等の再生可能エネルギーを使えば燃料費がかからないのでいいのかなと考えております。先日山梨県と新潟県へ視察に行きまして、2ヘクタール程のトマトの施設栽培をしていましたが、そこではガスを使って暖房をおこしていました。山梨では従業員を40人程雇っていて、そのうち約3分の1は正規職員として働いていました。次は10町歩くらいの規模でやりたいと言っていました。
- (委員) 鶏ふんを使っているというのは、そこからメタンガスを採って使うのか。
- (事務局) 直接燃焼させて熱をとります。
- (事務局) 熱と二酸化炭素を採る。二酸化炭素はトマトに与えると成長が早くなる。
- (事務局) 山梨県の場合はプロパンガスを使っていましたが、鶏ふんを使えば勝負できるのかなと考えている。

- (委員) 山梨とは冬場の気温が全く違うので、プロパンガスだとコストが高くなる。
- (事務局) 山梨の施設は八ヶ岳の方の標高が高い場所にあります。トマトは、夏場は涼しい方がいいということなので、標高が高い所は夏場がいいようです。
- (委員) それは企業誘致ということではなく、町内で企業を興すということか。
- (事務局) 町内の人であればいいと思いますが、お金がかなりかかります。
- (事務局) 企業を誘致するにしても国の補助事業を導入しないといけませんが、そのためには地元の認定農業者さんが何人か加わっていないといけないという制約がある。
- (事務局) 先ほどの山梨県の施設では、40人の従業員を集めるのが大変だという話をしました。今はどこの企業も人手不足で従業員の取り合いになっているということです。
- (委員) 今日の新聞にも北上の工場が人手不足という記事が載っていた。
- (事務局) トマトを作るには気温、日照時間、雨量が重要になってくる。水がないとダメ。すべて水道水で賄おうとすると採算が合わない。
- (委員) 新聞に載っていた人手不足の北上の工場は自動車工場だった。この先50年後に軽米町をシリコンバレーにして、機械産業の町にしては。それくらいの考えがあってもいい。
- (委員) 県内の人口の移動が、県北沿岸地区から北上、金ヶ崎のトヨタを中心とした工業団地に移動している。県内でも人口が増えるところと減るところが出ている。給与水準も違うので、軽米で勝負するのは難しいのでは。
- (委員) やはり農業か何かに着目していかないと。
- (事務局) その地域に合った産業として何を選んで力を入れていくのか考えなければならないと思います。
- (委員) 十文字チキンカンパニーでやっているバイオマス発電では灰と水が残るそうだが、灰はリン酸とカリになって売られるそうです。リン酸とカリは窒素を加えると肥料になる。最後に残るのはぬるくなった水だけだということ。その水を活用できないか。遠野のホップがキリンと農林公庫とタイアップして産地化に取り組んでいる。軽米も遠野に負けなくらいのホップの産地であるので、そういったことができないかと思う。トマトだったらカゴメやデルモンテとタイアップして、それを十文字と結び付けたり。大手企業とタイアップしてやっていくのがいいと思う。
- (委員) 農産物にしても、軽米のブランドがないと他の地域に流れていってしまう。何か特産になるものを作れたら農家も助かる。
- (委員) テレビで見たが、タレントの田中義剛が日本に1つしかないチーズを作っているそう。コンビニ等に卸していて9割が自社の商品ということ。世界中歩き回って見つけてきたそう。やはり1つしかないものは強い。
- (委員) 軽米町は再生可能エネルギーをキーワードとして、それに結び付けて協力金等を活用して産業振興を図っていくべき。他の市町村にはない部分なので、それを売りにして外に発信していけばいいと思います。
- (部会長) それでは次に分類3の地域資源についてということで、農業体験ツアーはとてもいい内容だと思います。えごまが忙しいときに収穫を手伝ってもらったりしたらいいのでは。
- (事務局) 一般の受入ではなく、企業の研修で来てもらえば面白いのかなと思っています。
- (委員) 以前東京から人を呼んで職業体験させたりしていたが、そういったこともいいと思う。
- (事務局) 現在も続けています。以前は補助事業がありましたが、現在はなくなってしまったので規模は小さくなっています。今年もチューリップフェスティバルに来てもら

- ったりしていたようです。先日も東京の銀河プラザに行って軽米ブランドの商品を売ってきました。いろんなところからお客さんが来て声をかけていただきました。
- (委員) 以前は泊まり込みで来ていて、ミレットパークで神楽を披露したこともあった。
- (事務局) そういったことも面白いと思います。会社の研修で来てもらって、地元の食材を食べてもらったり郷土芸能を鑑賞してもらったり。ヒメボタルもただ見せるだけになっているので、もう少し何かにつなげた形でホテル観賞会をできればいいと考えています。
- (事務局) ヒメボタルは今年4月に県の天然記念物の生息地として指定されています。そのため生息区域の刈り払い等が制限されているというのが今年からの状況となっています。今年はお客さんもある程度ありましたので、見ごたえのある鑑賞会だったなと思っています。
- (委員) 人数は増えているように感じる。
- (事務局) インスタグラム等できれいな写真をアップすると、とんでもない人が来るのではないかと思います。ただ見せるだけでなく、来た人たちに何かを買ってもらったり何かを食べてもらうということを考えられるといいのかなと。今まで出された意見の他にも、地域の資源を何か観光につなげていけるようなことがあれば出していただきたいと思います。
- (委員) ヒメボタルの鑑賞会に何度か参加させてもらっているが、周辺にお店がない。期間限定でもいいので、軽米の特産物が買えるようなお店があればいいと思います。
- (委員) 折爪岳の山登りは3市町村で開催しているのだから、合同でテナントを出したらいいのでは。
- (委員) 山の上の方には施設もあるので、もう少し明るくしてトイレを開放したり店舗を出したりすれば、もっと多くの人足を運んでくれるのではと思います。
- (事務局) 二戸に抜ける道路は通行期間が決められている？
- (事務局) 時間帯が決められている。2時間程度通行止めになっている。明確な理由は分かりませんが、排気ガスの制限だったりホテル観賞の時間帯に合わせているのかもしれない。
- (委員) 県内だけでなく、県外のナンバーもかなり多くみられる。ホテルを目当てに来ていと思うが、軽米の特産品を知ってもらえるいい機会だと思う。
- (委員) 観賞するためには結構な距離を歩かなければならないので、体の不自由な方や年配の方でも参加できるように、駐車場や道路沿いでも見られる箇所があるので、そういったコースの整備をしていただければいいのかなと思います。今だと3～4キロ歩くので、小さいお子さんでも見られるようにしていただきたい。一番大切なのは地元の人が町のことを好きになってもらうことだと思います。
- (部会長) それではそろそろ時間となりましたので、協議事項3の次回開催について事務局より連絡をお願いします。
- (事務局) 部会は今回を含めて2回を予定しておりますので、あと1回となります。次回は残りの分類について同じように意見を出していくという形で取りまとめをしたいと考えております。第2回は10月上旬から中旬頃の開催を予定しております。その案内と一緒に議事録を同封したいと思っております。
- (部会長) 10月上旬から中旬の開催予定ということでよろしいでしょうか。
- (委員) 異議なし。
- (事務局) 本日第1回部会の議事録はでき次第お送りしますので、12月の全体会までにご確認いただくような形となります。
- (委員) 全体会が終わらないと今まで出された意見は具体化しないのか。

(事務局) 来年度の予算に反映していくことになると思います。ただ、各課で参考になるご意見もありましたので、今後検討していきたいと思います。それでは、3のその他で皆さんから何かございますか。ないようですので、以上を持ちまして第1回しごと・観光部会を終了させていただきます。大変ありがとうございました。

○閉会